

体験しましたか?  
あなたはもう

# 大阪市立阿倍野防災センター

大地震発生、火災発生、…その時、みなさんは何ができますか。

大阪市立阿倍野防災センターは、映像や振動、地震発生直後の町並みなどを体感し、消火・避難・救助といった災害時に必要な一連の行動を関連づけてリアルに体験することができ、災害について考え、わかりやすく学べる施設です。

さあ、あなたも、あなた自身や家族を守り、街を守り、人を助けることができる「体験」を始めましょう!



地震災害体験ゾーン



消火コーナー



119番通報コーナー



他目的防災学習ルーム

イベント情報

キッズ&ユース・ファイアーイベント

消防服を着て放水、ミニミニ消防車の運転など、消防士になって「防災」にチャレンジ!夏休み自由研究に使える「わが家の防災マップ」や、ペーパークラフトによる消防車・救急車の作成コーナーもあります。  
8月3日(土)~8月11日(日)  
午前10時~午後5時

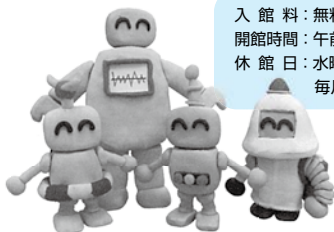
パパ・ママ応急手当教室

お子様に対する心肺蘇生法や、怪我ややけど、のどに物がつかえた時などの処置について、学ぶことができます。  
お出かけする機会も増える夏!もしものときの備えとして、ぜひ、ご参加ください。  
(定員30名・先着順)  
7月28日(日)午後2時~4時

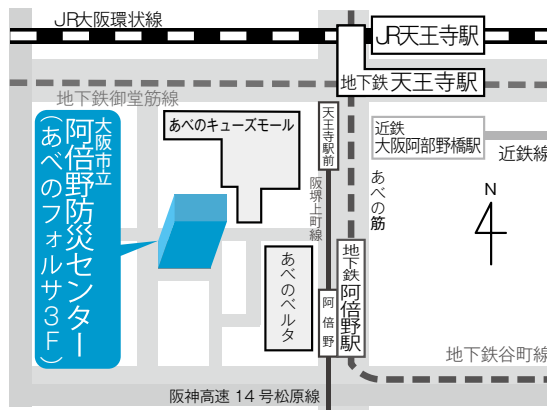
## 大阪市立阿倍野防災センター

〒545-0052 大阪市阿倍野区阿倍野筋3丁目13番23号  
あべのフォルサ3階

(地下鉄谷町線「阿倍野」駅1号-7号出入口より西に約300m)  
TEL:06-6643-1031 FAX:06-6643-1040  
HP:www.abeno-bosai-c.city.osaka.jp/



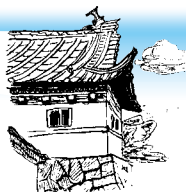
入館料:無料  
開館時間:午前10時~午後6時  
休館日:水曜日・毎月最終木曜日



救出コーナー



初期消火コーナー



## おおさか歴史探訪 ⑦

大阪の史蹟や歴史資料を毎号連続でご紹介します。

# “北の大火”と蜷川(曾根崎川)の埋め立て

明治42(1909)年7月31日、現在の北区松ヶ枝町あたりから出火した火災は、おりからの東風にあおられて西方向に広がり、北新地のほとんどの範囲を焼き尽くしました。焼失面積が1.2平方キロメートル、焼失家屋が1万1千件以上という大惨事でした。これがいわゆる“北の大火”と呼ばれる大火災です。

当時この場所には蜷川という川が流れていました。堂島川から分かれて北側にアーチ状にめぐり、再び堂島川に合流するように流れていました。蜷川の両岸には堂島新地の茶屋が建ち並び、大阪を代表する繁華街として賑わいをみせていました。近松門左衛門の『曾根崎心中』のお初は、ここにあった“天満屋”の遊女という設定でした。

火災の焼け跡整理では、大量の瓦礫の処分が問題となりました。この時期になるとレンガ造りの建物も多くなりましたので、一層深刻でした。そこで解決策として、蜷川をこれらの瓦礫で埋め立てるといふことがおこなわれました。瓦礫の処分ができ、川を埋め立てると市電を通す際に橋を建設する費用を節約することもできました。下水道の改良工事も合わせておこなうことができました。

ただ良いことばかりではありませんでした。大川を望む北浜あたりは景勝の地として知られていて、夏の夕暮れには堂島新地から蜷川を通過して納涼船が繰り出し、大いに賑わいました。蜷川を埋め立てたことにより納涼船の姿はみられなくなり、大阪の夏の風物詩がひとつ失われてしまいました。

(大阪市教育委員会 文化財保護担当)



蜷川銅板標

(JR「北新地」東改札から東へ、地上出口11-41を出て南へ約50m)